

BCGワクチン 予防接種説明書

<結核の予防>

結核とは？

結核菌の感染で起こります。大人から子どもへ感染する事も少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからお腹の中でもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

日本でも毎年2万人前後の人が発病しており、発病者の約7割が60歳以上の高齢者ですが、小児、若年者の結核もみられ、最近では減り方が鈍っています。結核の科学療法の進歩により、ほとんどの例を抗結核薬で治すことができますが、今でも6か月以上の治療が必要となります。

接種について

BCGはウシ型結核菌を継代培養して確立した弱毒株を凍結乾燥させた生ワクチンです。

BCGの接種方法は、管針法といってスタンプ方式で、上腕の2カ所に押し付けて接種します。

対象者	標準的な接種期間	回数
1歳に至るまでの間にある者	生後5カ月に達した時から 生後8カ月に達するまでの期間	1回のみ

副反応について

BCG接種後10日頃から個々の貼り後部位に小さな発赤や膨隆が生じます。その後同部位が化膿することもあります。このような変化は接種後1か月頃で最も強く、やがて個々の針後部位にはかさぶたが生じ、3か月頃までにははげ落ちて小さな傷あとを残すのみとなります。

その他の副反応として皮膚結核様病変、骨塩、さらにまれに全身播種性BCG感染症が報告されています。

なお、接種直後から数日中に発疹などの過敏症反応がでることや、ごくまれにショックやアナフィラキシーも報告されています。

また、医療機関から報告された副反応の疑い例の内、重篤症例の発生頻度は0.0028%です。

コッホ現象について

結核菌に既にかかっている方がBCGを接種した場合、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び針痕部位に化膿などを起こし、通常2週間から4週間後に消炎、傷跡となり、治癒する一連の反応が起こる事があり、これをコッホ現象と言います。これは、BCG再接種においてみられる反応と同一の性質のものが結核菌感染後の接種において比較的強く出現したのになります。

コッホ現象と思われる反応が見られた場合は、**速やかに最寄りの診療所や接種医療機関を受診してください。**

また、コッホ現象が出現した場合は、**接種部位を清潔に保つ以外に特別な処置は不要です。**反応が起こってから、びらんや潰瘍が消失するまでの経過がおおむね4週間を超えるなど治癒が遅れる場合は、混合感染の可能性もあることから、最寄りの診療所や接種医療機関を受診してください。